

はじめに

これまで「人権学習プログラム」は、学校・園（所）における人権教育を推進するため、県内の幼稚園・小学校・中学校・高等学校のモデルプログラムの事例を紹介する目的で発行してきました。

今年度作成しました「人権学習プログラム第3集」では、人や社会とのかかわりから自分自身を見つめ、自尊感情を高めるとともに、他者も認めていくことの大切さを理解する事例や人権問題について正しく理解し、課題解決に向けて実践的態度を養うことをめざしたモデルプログラム等を紹介しました。

ぜひ、この学習プログラムを積極的に活用いただき、一人ひとりの人権を大切にされた教育が推進されることを期待しています。

目 次

○人権教育推進構造図	2
・人権教育推進プランから	
○人権学習プログラム組み立ての基本について	3
○人権学習プログラムの見方について	3
○人権学習プログラム例	
＜幼稚園＞	
お兄ちゃん、お姉ちゃんまた遊ぼうね(4・5歳児)	
A児といっしょに ～障害のある友だちとかがわる～(4・5歳児)	
「わたしのピーマンできた！」(5歳児)	
ザリガニついで来たよ(5歳児)	
＜小学校＞	
だれもが住みよいまちに(中学年)	
ごみから考える私たちのくらし(第4学年)	
輝く笑顔をつくりだそう ～5歳児交流会を通して～(高学年)	
ちがいがあからおもしろい(高学年)	
アイヌ文化に学ぼう(高学年)	
＜中学校＞	
誰もが安心して過ごせる学校をつくるために	
どの命も尊いんだよ	
おかしいなと気づいたときに・・・	
人権感覚を磨こう	
＜高等学校＞	
情報化社会における人権尊重とは	
障害のある人たちの交流を通して自己の生き方を考える	
つづることを通して、仲間と思いを交流・共有する	
○索引(第1集・第2集・第3集のテーマおよび関連項目)	